

農免農道整備事業（国上中目地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査事業報告書

# 平庭 B 遺跡

2000年3月

西之表市教育委員会



主な出土土器



主な出土石器類

# 第1章 調査の概要

## 1 調査に至る経緯

鹿児島県農政部農地建設課（熊毛支庁土地改良課、以下県農政部）は、西之表市国上中目地区内において農免農道整備事業を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下県文化財課）に照会した。

これをうけて、県文化財課と西之表市教育委員会文化課（以下市文化課）が平成9年3月に埋蔵文化財分布調査を実施した。その結果、事業区内に稲庭・平庭A・平庭B・高峯遺跡が存在することが判明した。

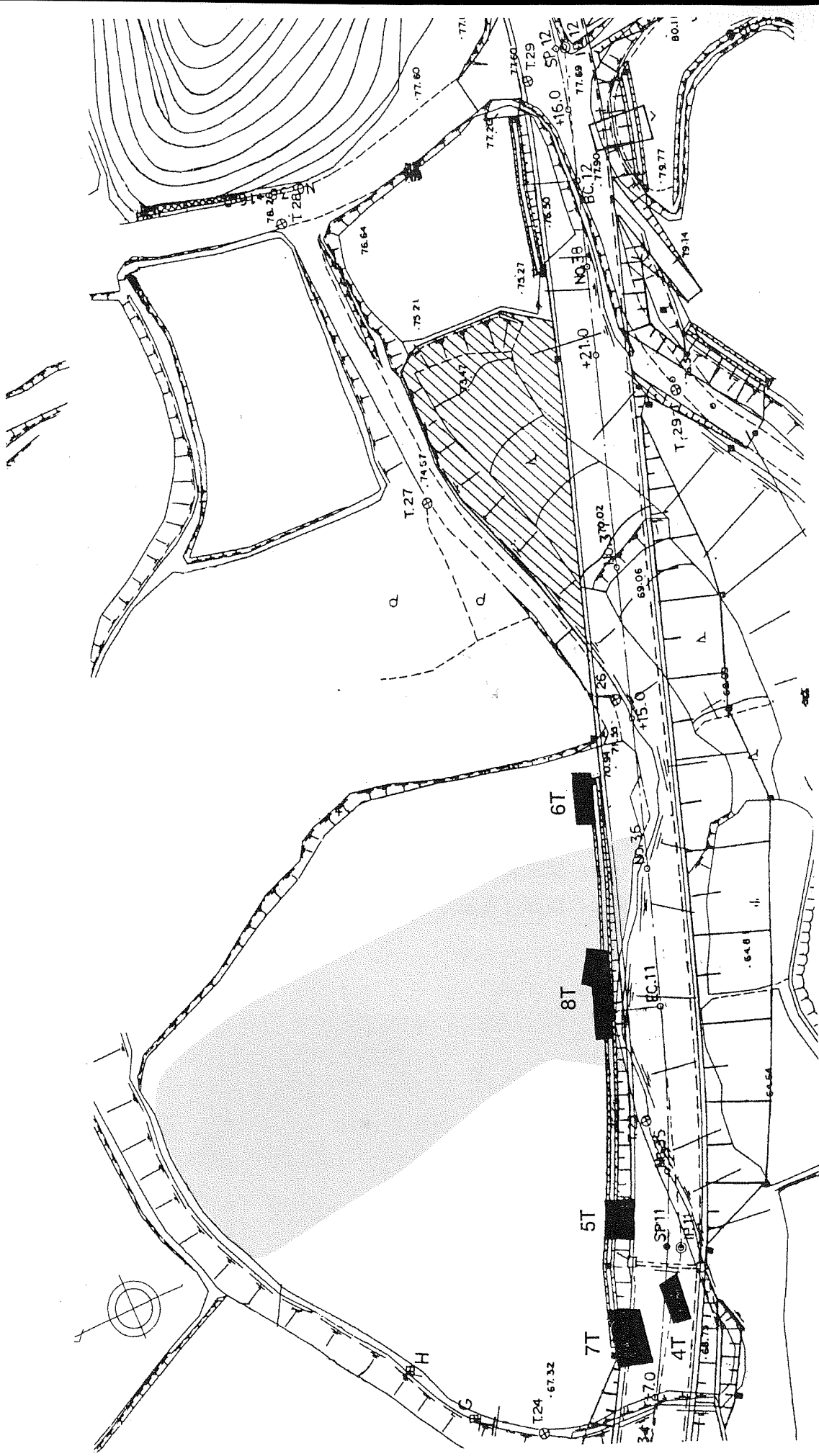
この分布調査結果をもとに、県農政部・県文化財課・市文化課で協議した結果、埋蔵文化財の保護と事業の推進を図るため、埋蔵文化財確認調査を実施することとなった。

確認調査は、県農政部より工事の都合上早急実施の要望があったため、10年度調査の予定ではなかったが緊急に実施することとなった。調査は、西之表市教育委員会が調査主体となり、平成10年7月6日から7月23日まで行い、その結果、事業区内では平庭B遺跡のみ遺物包含層が確認され、他の遺跡では確認されなかった。

この調査結果をふまえ、西之表市教育委員会文化課と熊毛支庁土地改良課は平庭B遺跡の取り扱いについて協議を行い、事業実施上、遺跡を現状保存することは困難となったため、緊急発掘調査を行い記録保存することとなった。緊急発掘調査は西之表市教育委員会が調査主体となり、平成11年5月12日から6月7日までの期間で実施した。

## 2 調査の組織

発掘調査主体者	西之表市教育委員会
発掘調査責任者	教育長 鎌田一正
発掘調査企画担当	文化課 課長 鮫嶋安豊
	補佐 奥村学
発掘調査担当	主事 沖田純一郎



平庭B遺跡の範囲



## 発掘作業員

高石友好・山下キヌ・竹之内美佐江・織田スミ子・荒牧文子・榎本イズ子

小倉京子・荒河あゆみ・高橋恵子・中村桂子

## 3 調査の経過

調査は、平庭B遺跡のエリアのうち確認調査の結果をもとに、農道建設工事区域内を対象に行った。農道の幅杭を基準にグリッドを設定し、東側をA区、西側をB区とした。調査を進めるうちB区からの遺物の出土は少なく、主にA区を中心に遺物は出土した。最終的な調査対象面積は約120㎡であった。以下、調査内容については、調査日誌より抄述する。

5月12日（水） プレハブ設置

13日（木） 調査区設定、重機で表土除去作業。ベルトコンベア設置。

15日（土） 発掘調査案内板設置。調査地写真撮影。

17日（月） 調査開始。A-1区掘り下げ。鮫嶋文化課長、奥村文化課長補佐来跡。

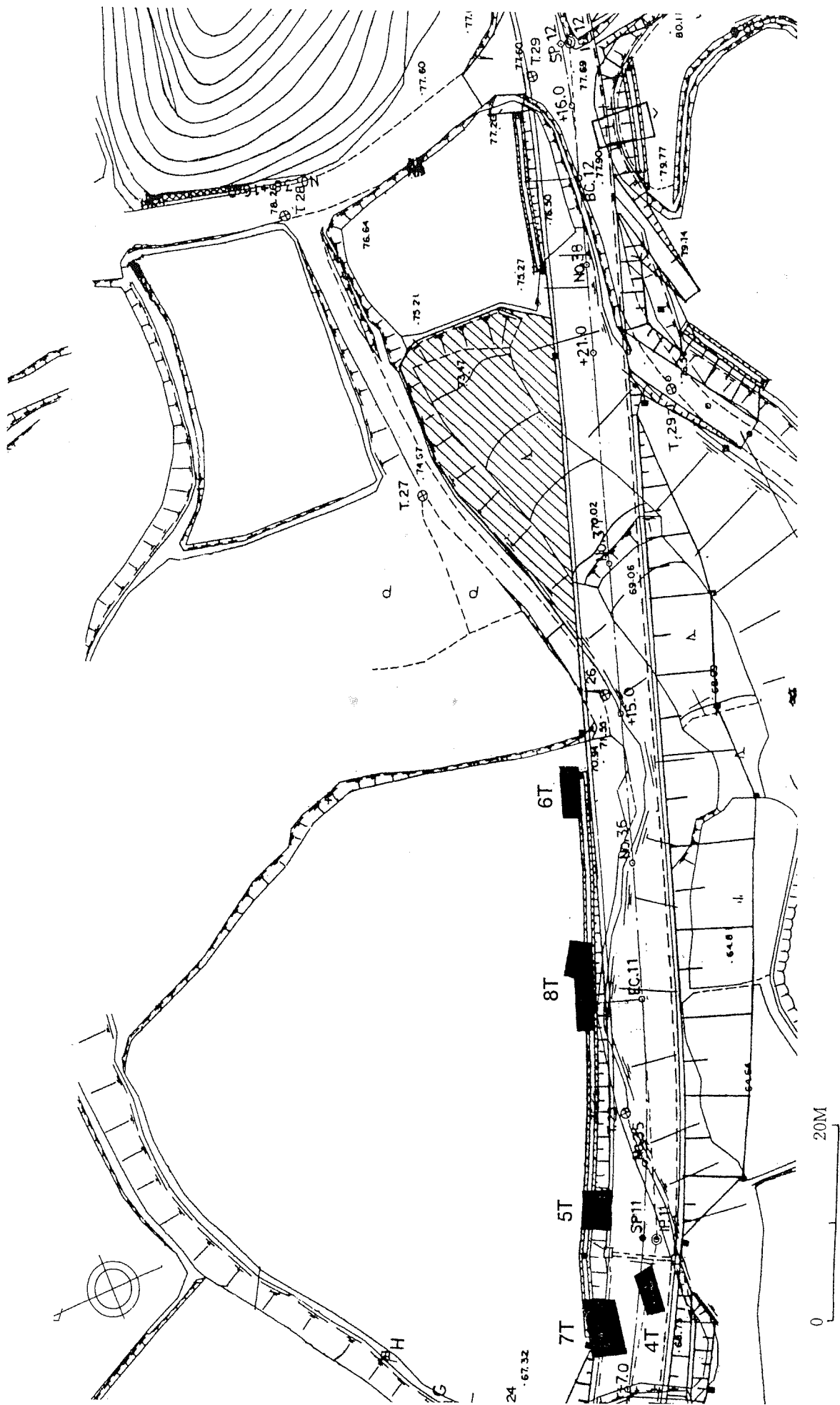
18日（火） A-1区、掘り下げ作業。旧8トレンチ付近で土器片出土。  
雨のため作業午前中で終了。

19日（水） A-1・2区、掘り下げ作業。遺物包含層確認。昨日の雨のため、旧8トレンチの壁面が崩壊したため土砂除去作業。  
榕城中学校 新田先生発掘作業研修。  
西之表市文化財保護審議委員 伊東安年氏来跡。

20日（木） A-1区、掘り下げ作業。遺物95点平板・レベル測量、取り上げ作業。遺物出土状況写真撮影。土層断面精査。

21日（金） A-1・2区掘り下げ作業。遺物出土状況写真撮影。

- 24日（月） 昨日の雨で調査区が土砂で埋没、土砂除去作業を行う。その後掘り下げ作業。土層断面図作成。西側で土器片が集中して出土。
- 25日（火） A-1区、西側部分の掘り下げ。雨のため作業午前中で終了。
- 26日（水） A-1区、東側掘り下げ。雨のため作業午前中で終了。  
鹿児島県立埋蔵文化財センター 大久保氏、西薊氏来跡。
- 27日（木） 雨のため作業中止。
- 28日（金） A-1・2区、B-1・2区土層断面清掃掘り下げ作業。すり石類多数出土。  
遺物出土状況写真撮影。
- 31日（月） A-1区掘り下げ作業。  
国上小学校6年生18名、国上中学校3年生19名、発掘調査見学及び発掘体験学習。
- 6月1日（火） A-1区掘り下げ作業。平板、レベル測量遺物取り上げ。作業状況写真撮影。  
遺物出土状況写真撮影。
- 2日（水） A-1区平板、レベル測量遺物取り上げ。A-2区、東側土層断面図作成。  
西之表市教育委員会 鎌田教育長、鮫嶋文化課長、奥村文化課長補佐来跡。
- 4日（金） 調査地コンタ図作成。発掘状況写真撮影。土層断面図作成。
- 7日（月） 発掘調査地埋め戻し作業。



平庭B遺跡第4トレンチ～第8トレンチ配置図



## 第II章 調査区の位置と概要

### 1 調査区の位置と環境

西之表市は佐多岬の東南海上約33kmに位置する南西諸島最北部の島である、種子島に位置する。種子島は北から西之表市、中種子町、南種子町と1市2町からなり、西之表市は南に中種子町と接している。種子島の南西には屋久島があり、その南には弧状に点々とトカラ列島、奄美大島、沖縄諸島と続いている。

本調査区は、西之表市の北部国上中目地区に所在する。中目地区は国上地区の中心になっている集落であり、小学校・中学校が所在する。集落の背後には国見山があり、種子島北部の警固のため重要視されていた。

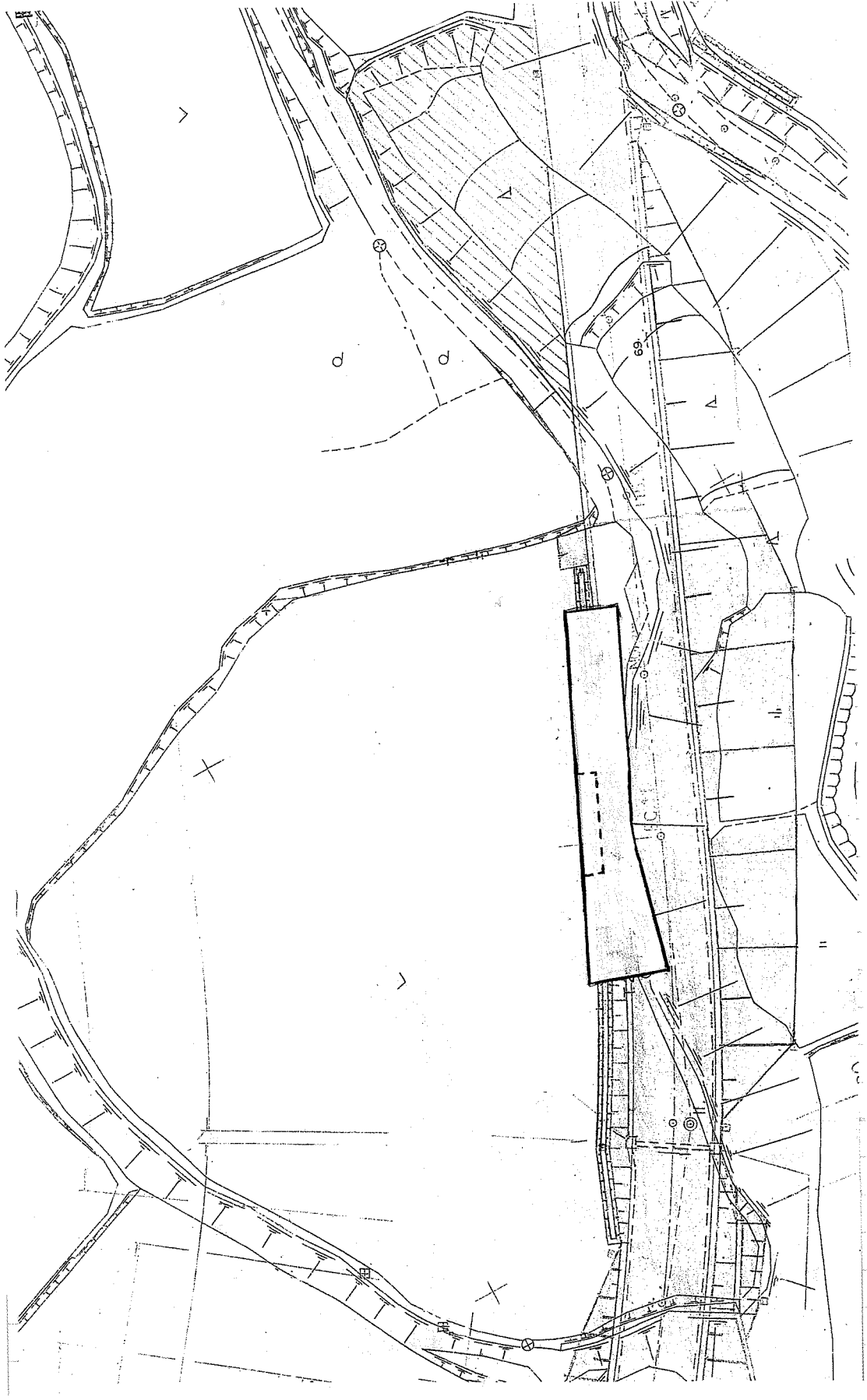
周辺の遺跡は、旧石器時代から古墳時代までの遺跡が散布し、特に旧石器時代の遺物（細石核・細石刃）が採集されている点が注目される。今後、種子島の旧石器時代を探る上で国上地区は重要な位置を占めるものと思われる。

周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	小浜貝塚	国上 浦田	砂丘	縄文～中世	土器片・獣骨等	平成8年 詳細分布調査
2	国見岳	国上 中目	台地	弥生	土器片	
3	寺之門	国上寺之門	平地	縄文後期	土器片・石器	平成9年 発掘調査
4	太田Ⅰ	〃	台地	縄文	土器片	
5	太田Ⅱ	〃	台地	縄文	〃	
6	稲村	国上 中目	平地	縄文	〃	平成9年 分布調査
7	稲庭	〃	平地	古墳	〃	平成10年 確認調査
8	平庭A	〃	台地	古墳	〃	平成9年 分布調査
9	平庭B	〃	台地	縄文	〃	平成10年 確認調査
10	高峯	〃	台地	縄文	〃	〃
11	湊	国上 湊	台地	旧石器・縄文	細石核・土器片	平成8年 表面採集
12	小浜	伊関 柳原	砂丘	古墳	人骨・土器片	平成9年 発掘調査
13	大中峯	国上 中目	台地	旧石器	細石核・細石刃	平成10年 表面採集

# 周辺遺跡

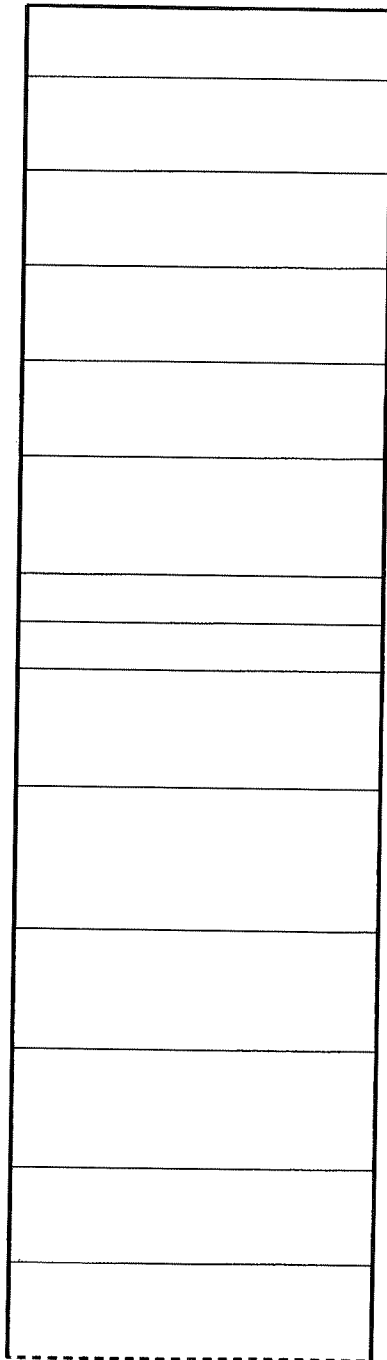




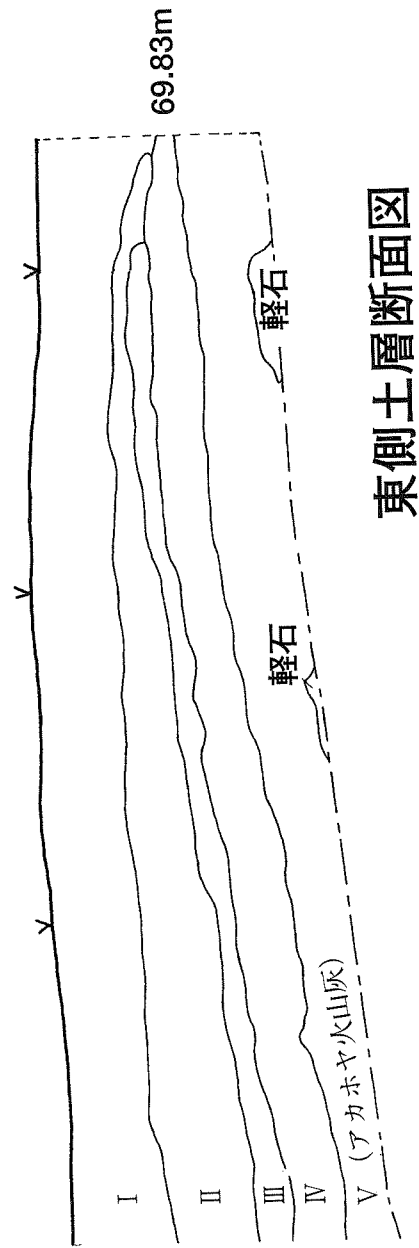
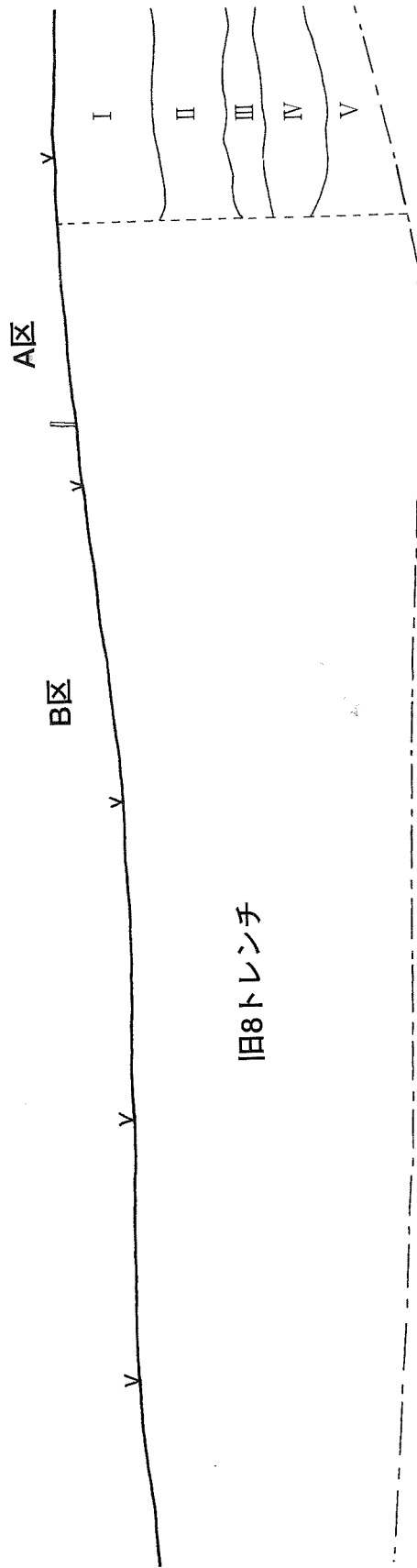
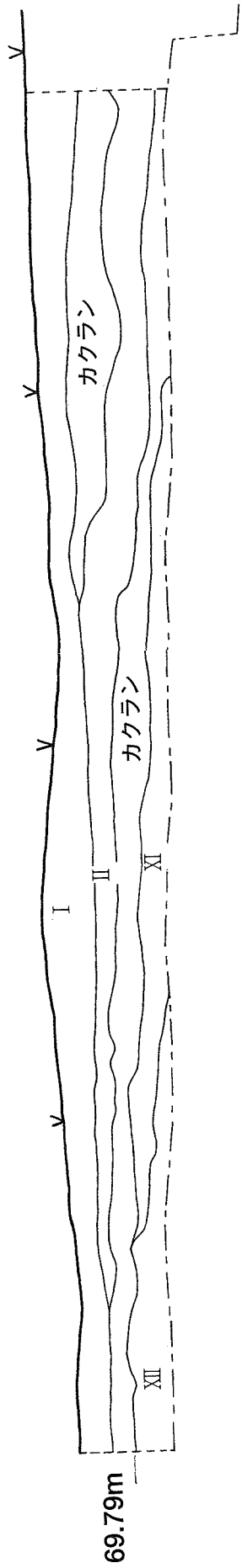
調査区

## 2 調査区の層序

調査区の土層は平成10年の確認調査時に把握しており、基本的にはI～XII層までに区分できるが、前回の調査でV層以下から遺物包含層が確認されなかったため、今回の調査ではV層を最下層として扱った。調査地は、後世の開墾や耕作その他の原因によって造成がなされており、堆積状況は極めて不安定な箇所も見うけられた。



- I 表土
- II 造成土
- III 黒色土（旧表土）
- IV 暗茶褐色土
- V 明橙色火山灰土（アカホヤ火山灰）約6400年前
- VI ベージュ色ローム層
- VII 暗茶褐色土
- VIII 明茶褐色土
- IX 暗茶褐色土
- X 黒褐色土
- XI 暗茶褐色土
- XII 明黄橙色火山灰土（AT火山灰）約24000年前
- XIII 暗茶褐色粘質土
- XIV 岩盤



東側土層断面図

## 第三章 発掘調査

### 1 遺跡の概要

平庭B遺跡は、国上中目に所在し、周囲の平坦な台地の幅は狭く、また遺跡の南側は急な傾斜で一段下の畑地に下降していく。台地の平坦な部分や傾斜地は畑地として利用されている。今回の調査対象地は、現況は畑地であるが、台地上で最も平坦な部分にあたる。

平庭B遺跡の確認調査は、4・5・6・7・8トレンチの5箇所を設定して調査された。4・5・7トレンチでは、すでに岩盤付近まで削平が行われており遺物包含層は確認できなかった。6トレンチについては、縄文時代前期、早期に相当する土層は認められたが、遺物、遺構とも発見されなかった。8トレンチでは、縄文時代前期の土器片、石器類が出土した。周囲の調査状況から、8トレンチ周辺部分のみ遺物包含層が残存していることが予想された。

これらの遺物包含層の広がりにかけては畑地全体にまでおよんでいたと思われるが、畑地内の遺物包含層のほとんどが削平されていると思われた。また、旧地形は西側にむけて緩やかに傾斜していたと思われ、この傾斜地を現在の畑地の土砂で埋め平らにしていたこともわかった。そのため、表面調査では縄文後期（約3千5千年前）の土器片が採集されていたが、調査では縄文後期の遺物包含層はいずれのトレンチでも確認することができなかった。平庭B遺跡はかつては縄文時代後期・前期の遺跡であったが、現在では耕作等により縄文時代前期の遺物包含層が、削平を受けていない部分のみ残存していることが予想された。

### 2 調査の概要

工事用の道路の幅杭を基準にグリッドを設定し、東側を1区、西側をB区とした。重機で調査対象地の表土を水平に除去し、さらにⅡ層まで除去すると、B区の一部ではすでに遺物包含層が削平されていることが判明した。人力での掘り下げはⅢ層上部より行うことにした。

遺物包含層はⅢ層・Ⅳ層に分層できるラインから出土し、縄文時代の前期の遺物である。また、旧地形が傾斜地であるためかなり掘り下げないと遺物包含層にあたらない箇所もあり、当初の予定よりかなり掘り下げることになった。また、流れこみと思われる土器片がまとまって大量に出土する部分もあり、一括で取り上げなければならない状況であった。遺構は3基のピットを検出したが、いずれも樹根であった。また、集石と思われたものを1基検出したが、礫の位置や状況から集石と判断することはできなかった。

## 第IV章 出土物

### 1 遺構

ピット3基を検出したが、埋土を確認した結果いずれも樹根であることが判明した。

集石（石蒸し炉）と思われるものを、1基検出したが、礫の集まり具合や状態を考えた結果、集石とは断定できなかつた。よって、今回の調査では遺構は確認できなかつた。これは、調査面積が狭かつたこともひとつの要因と思われる。

### 2 出土遺物

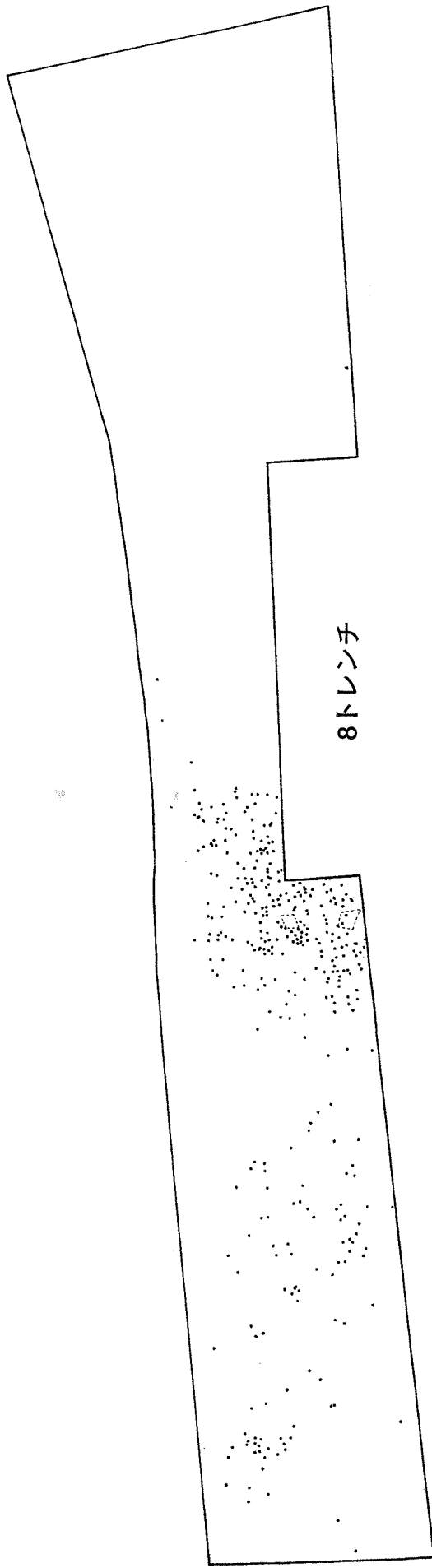
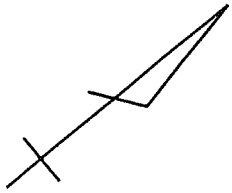
#### (1) 土器

確認調査時の遺物も含めて、約300点の土器が出土した。土器の器種としては深鉢形と浅鉢形土器に大別される。施文方法はみみず張れ状の隆起細帯文を施すもの、貝殻条痕文及びへら状の工具などで施しているもの、無文のものとおおまかに3つに分類できる。また、このみみず張れ状の隆起細帯文は、張り付けの位置や大きさなどから更に細分化することができ、口縁部に沿ってほぼ平行に3条から4条にわたって張り巡らしているもの、隆起細帯文を縦に張り巡らしているもの、平行に張り巡らしているものと、縦に張り巡らしているものと両方の施文方法で文様をつけているものなどに分類できることができる。底部は、数点出土したが1点を除き、いずれも尖底形を呈し、いわゆる砲弾形と呼ばれているものである。また、土器にススが付着しているものもあり、煮炊きに使用していたものと思われる。補修孔があるものも数点確認された。

#### (2) 石器

出土した石器のほとんどが、すり石、たたき石類である。石材は砂岩のものが大部分で、原形をとどめないほど、使いこんでいるものも見受けられた。石斧と確認できる物は2点出土した。小型の磨製石斧と大型の石斧である。小型のものは木材の加工用として使用されたものと思われる。大型の石斧は、原石を剥離して得たもので、剥離されたままの形で利用されている。また、基部付近には2カ所の抉りが認められ、木材に装着して使用していたものと考えられる。

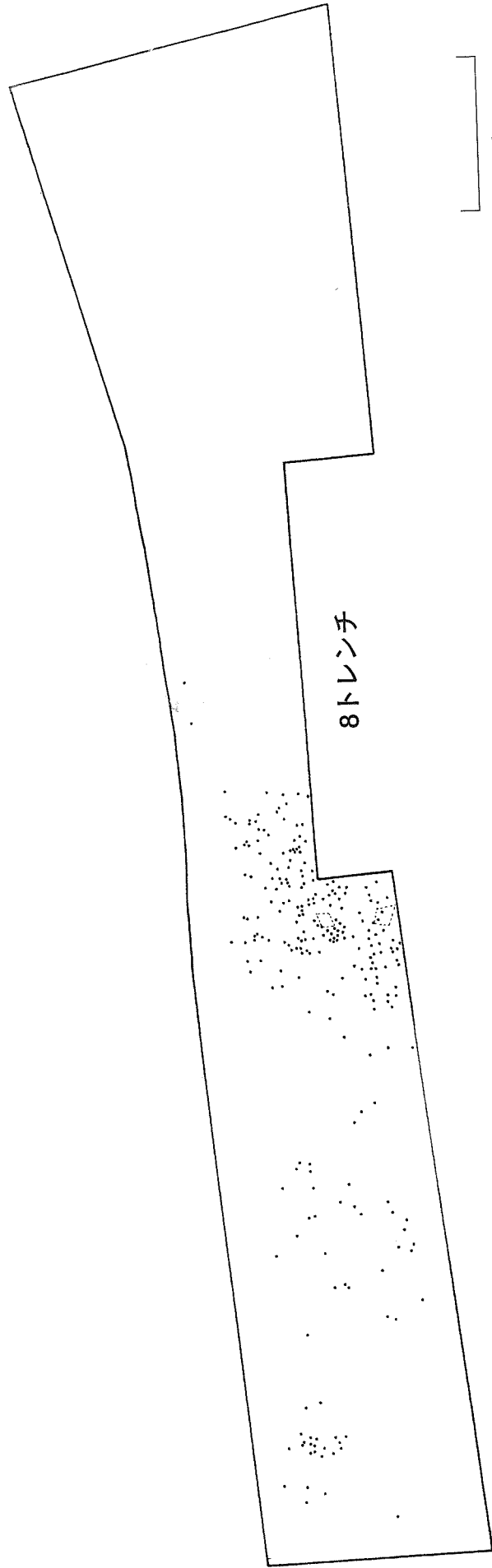
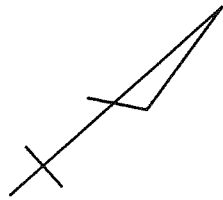
黒曜石剥片も数点出土した、石材から鹿児島県産のものと考えられる。また、水晶の小片が1点出土している。非常に透明度の高い質のいい物であるが、攪乱層からの出土であり、使用されていた時代を断定することは困難である。軽石も数点出土しているが、摩耗がはげしく加工痕、使用痕ははっきりと確認できないものが大部分をしめる。



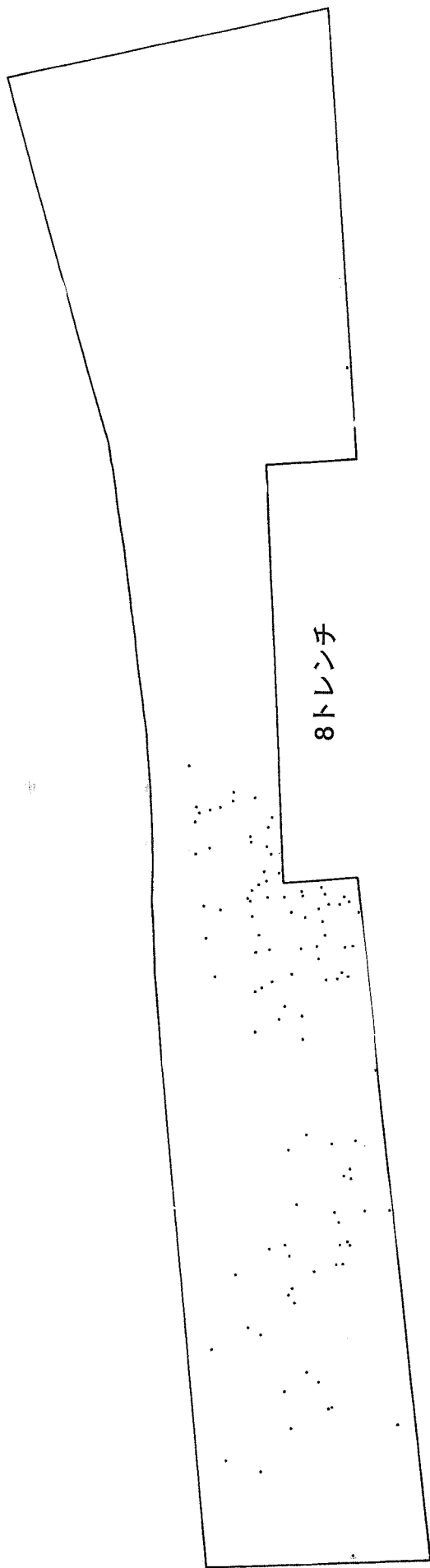
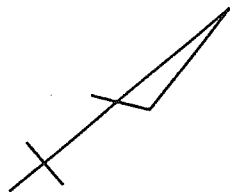
遺物出土状況

1m



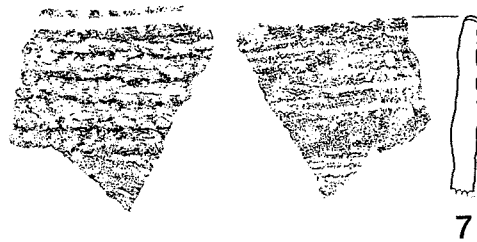
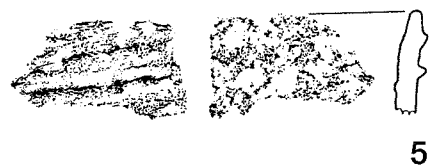
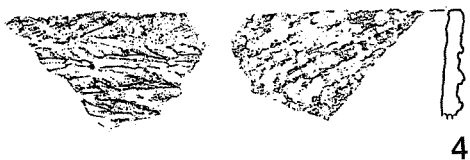
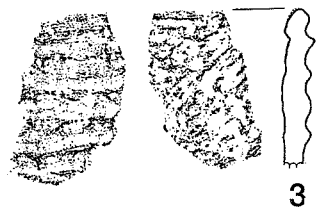
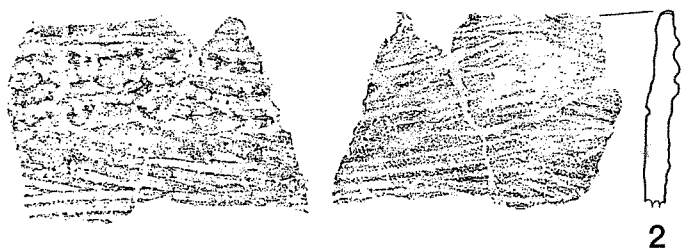
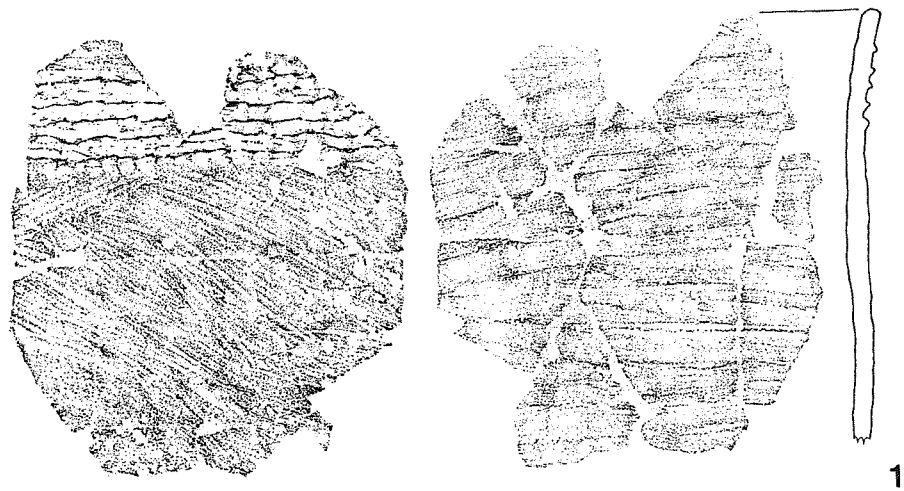


土器出土状況



石器出土状況

1m



出土土器 (1)

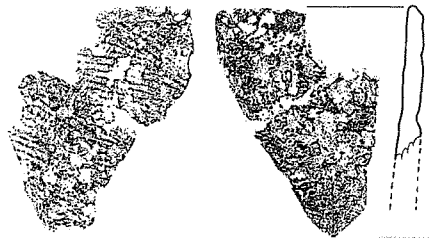
10cm



14



15



16



17



18



19



20



21



22



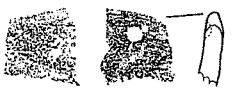
23



24



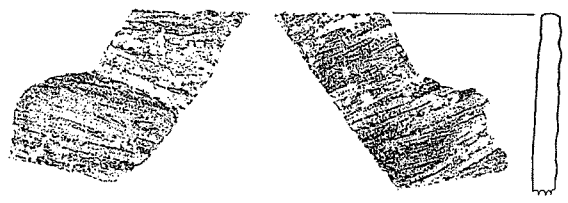
25



26

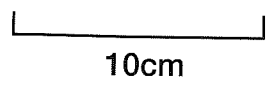


27

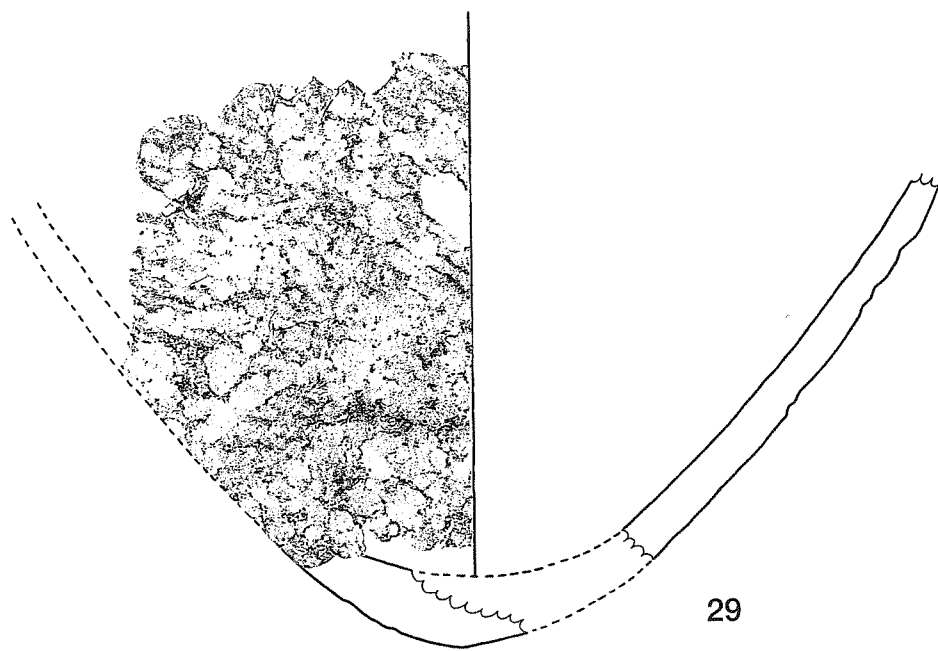


28

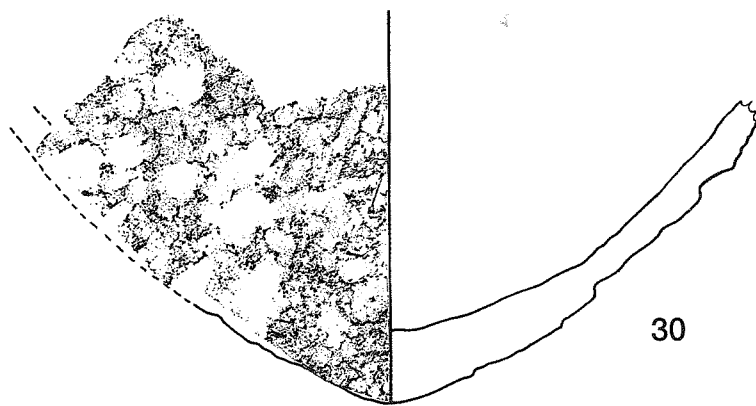
出土土器 (2)



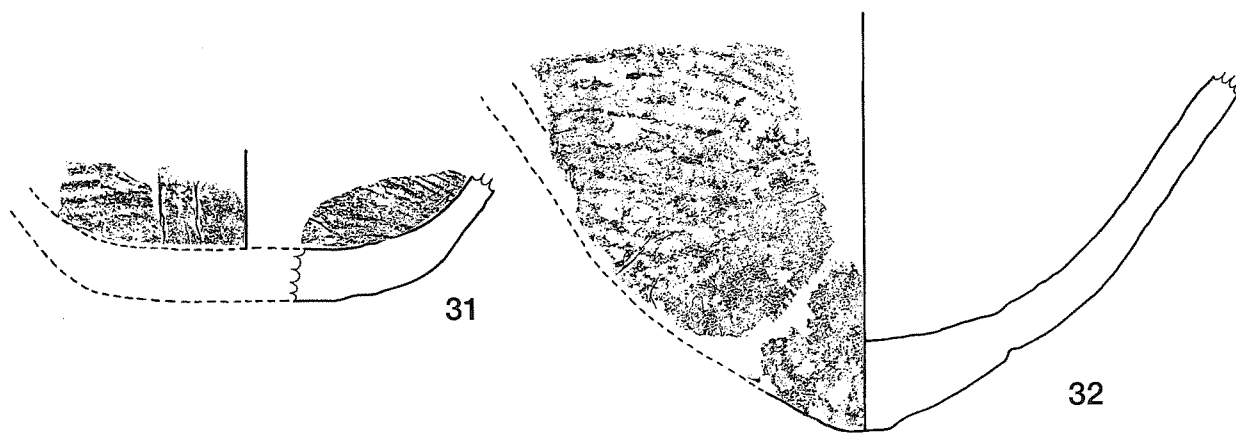
10cm



29



30



31

32

出土石器 (底部)

10cm

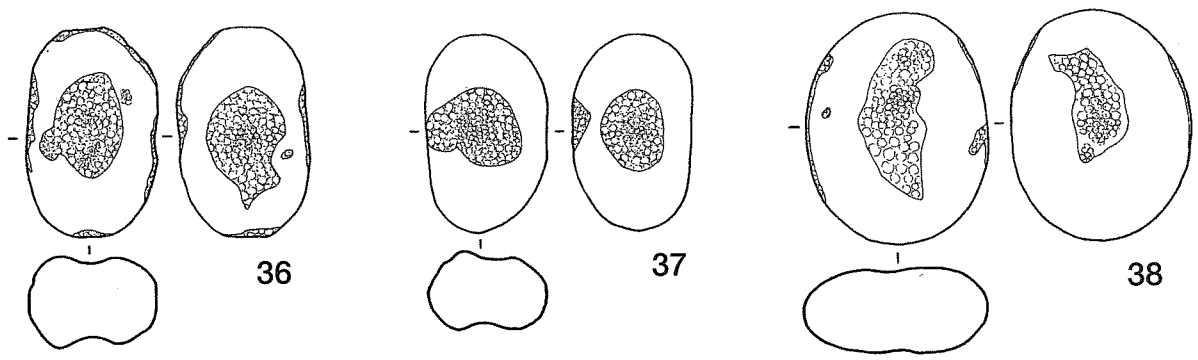
主な出土石器一覧表

図面番号	器種	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	注記
33	石斧	A-1	IV	頁岩	11.9	10.2	2.9	472	386
34	石斧	A-1	IV	頁岩	5.2	2.8	0.9	20	441
35	石皿	A-1	IV	砂岩	19.5	11.7	2.6	1260	279
36	たたき石・凹石	A-1	IV	砂岩	8.4	5.1	2.9	235	265
37	すり石・たたき石・凹石	A-1	IV	砂岩	7.9	4.7	2.6	183	385
38	すり石・たたき石	A-1	IV	砂岩	9.3	7.2	3.1	345	120
39	すり石・たたき石・凹石	A-1	IV	砂岩	6.2	5.9	2.8	188	210
40	すり石・たたき石・凹石	A-1	IV	砂岩	7.8	6.5	2.9	277	436
41	すり石・たたき石	A-1	IV	砂岩	10.8	10.4	3.9	690	232
42	すり石・たたき石	A-1	IV	砂岩	10.8	9.3	3.8	620	321

単位：長さ・幅・厚さ（cm）  
重さ（g）

38は、両面と側縁部に使用痕が認められる。39は側面を扁平に敲打し、両面に窪んだ面がある。また片面には磨面も見受けられる。41は両面側縁部ともに使用痕が認められる。36は両面に窪み、周縁に著しい使用痕がある。42は両面が著しく磨り減っており、いわゆる面取り石といわれるものである。敲打の跡も一部に認められる。34は小型の磨製石斧で刃部は丸みを帯びている。両刃である。33は両側縁部に抉りを入れ、丁寧に加工してある。大型の打製石斧である。剥離面をそのまま利用し、使用したと思われる。35は小型の石皿で一部欠損しているが、使用面がかなり凹んでいる。

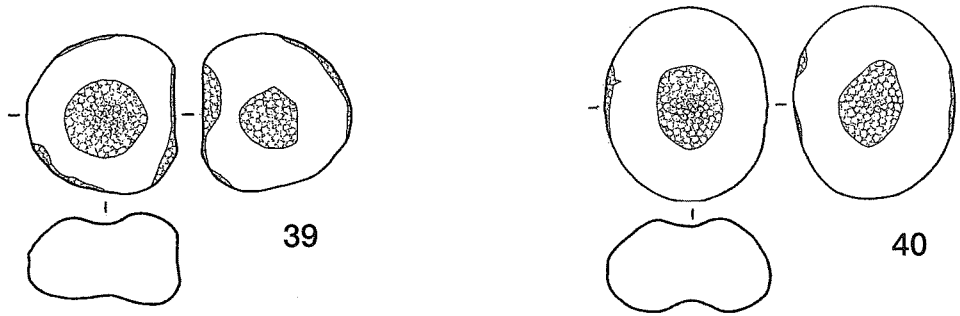
軽石も数点出土しているがなんらかの製品とは思えず、その大部分が磨り減って丸みを帯びた形状をしている。民俗例から推測するに、土器に付着したススを落とすのに使用していたと考えられるが、類例が少ないので断定することはできない。



36

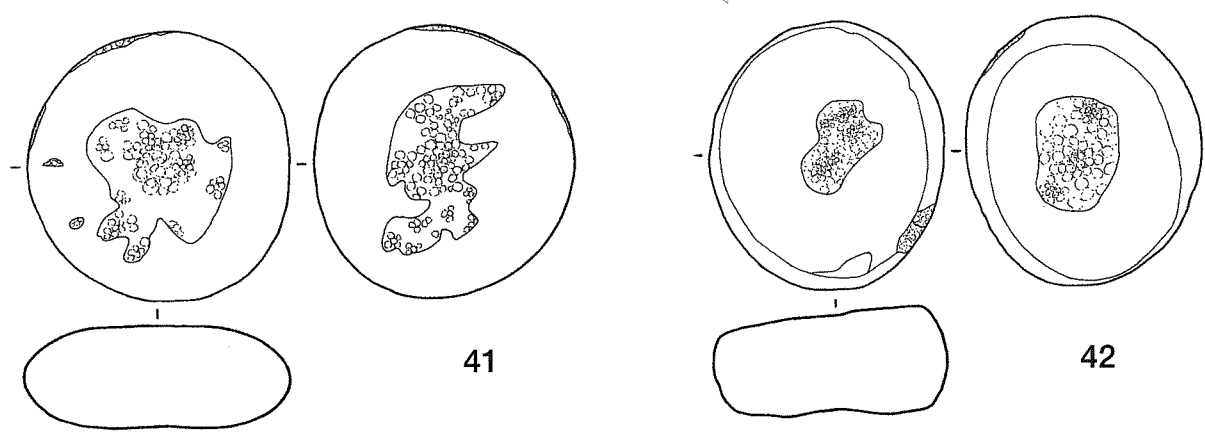
37

38



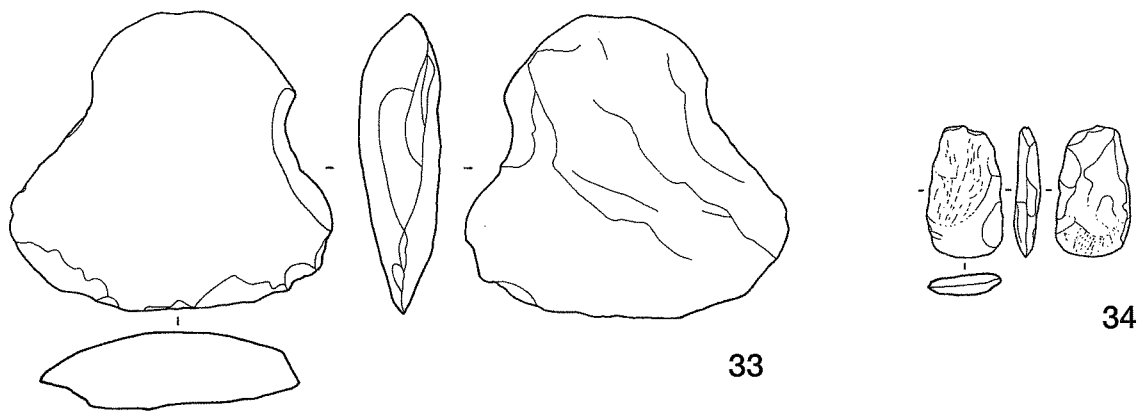
39

40



41

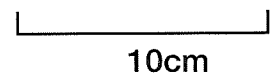
42



33

34

出土石器



## 第V章 調査のまとめ

### 平庭B遺跡

平庭B遺跡は、出土土器や出土層から、縄文時代前期の遺跡である。出土した土器は轟式土器と呼ばれるものが大部分を占め、その分布の中心は主に北・中九州であるが南九州にも南進している。下剥峯遺跡（西之表市現和）や一湊松山遺跡（上屋久町）など種子島・屋久島でもすでに確認されている。また奄美大島や沖縄へも、やや文様の付けかたが変化しながら伝わっている。海を越え広範囲に出土している土器である。種子島は、縄文時代早期以前は南九州とほぼ同じ文化圏に属していたことがこれまでの調査で明らかとなっているが、約6400年前に鬼界カルデラが大噴火をおこし、それによってもたらされたアカホヤ火山灰が島全体を覆いつくし、種子島はもちろんのこと南九州に大きな打撃を与えたと考えられている。このアカホヤ火山灰が縄文時代前期、早期を分ける一つの鍵層となっているが、この噴火のために、それまで育まれていた種子島を含む南九州独自の文化がアカホヤ火山灰によって一時途絶え、変わって北・中九州の文化の影響をうけることとなったと考えられている。

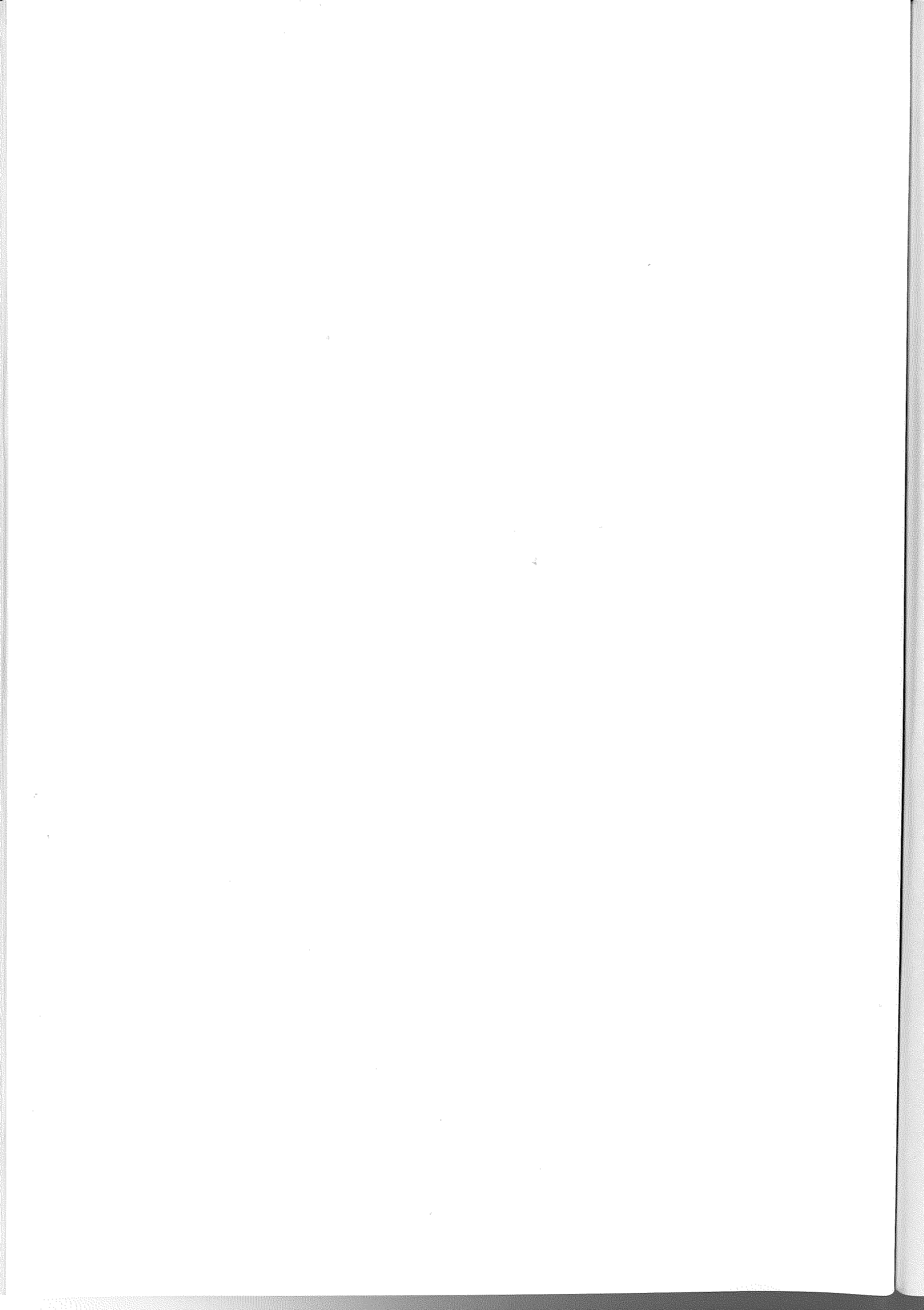
本遺跡の出土土器の大部分を占める轟式土器は、熊本県宇土市に所在する轟貝塚から出土した土器を標式とするもので、薄手深鉢を主とし、口縁に山形隆起を有するものもある。文様はアルカ属の貝殻による条痕が走り、この上に断面三角形の細線隆起文が横・縦または斜めに平行に施されている。最も標式的な型式は、土器の表裏面ともに貝殻条痕を横走させた上に、土器の表面にミミズばれ状の隆起細帯文や点線文を施した鉢形・深鉢形の土器である。外反する長頸で肩の張った、文様もやや複雑化したもの（轟B式ともいわれる）と区別して、轟A式と呼ぶこともある。九州全域にわたり見られる土器である。

平庭B遺跡から、出土した土器は轟A式といわれるものが大部分を占める。土器の胎土を観察した結果、種子島で製作されたものと、外部からの持ち込み品があることがわかった。出土した石器の大部分はすり石・たたき石類が圧倒的に多かったものの、石皿は1点しか出土しなかった。調査面積が狭かったため、遺跡を形成した人々の生活の全容を推測することは一概には言えないが、石器から判断するに、当時は植物性食料にかなり依存していたことが考えられる。

台石とすり石2個がきわめて近い位置で出土したため、住居跡の存在も考えられ、詳細に調査をすすめていったが、確認することはできなかった。

平庭B遺跡は種子島では、現在のところ数少ない轟式土器の単純遺跡である。轟式土器に続く曾畑式土器の遺跡は、種子島・屋久島でも発見され調査がおこなわれているが、轟式土器については県本土との関係や、縄文時代早期から前期にかけての文化の変遷など未解明の点が多い。本遺跡は調査面積が狭く、遺跡の全貌を伺うことは困難であったが、今後、他の遺跡からの類例が増えることにより、これらの点も解明されていくことであろう。





# 写真図版

真 實 圖 解



1



2



3



8



9



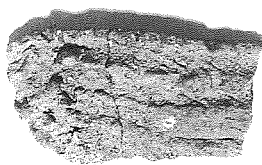
10



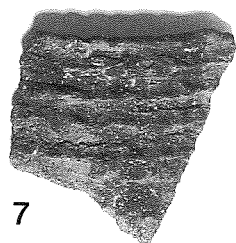
4



5



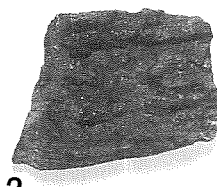
6



7

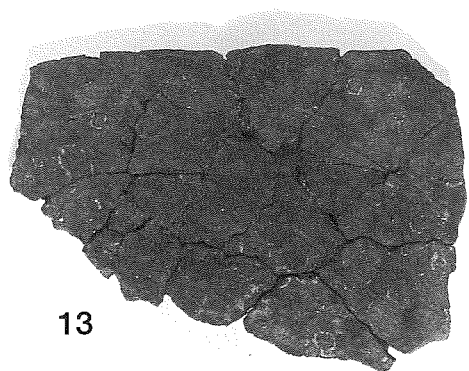


11

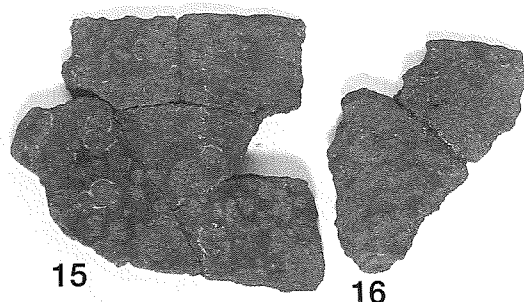


12

出土土器 (1)

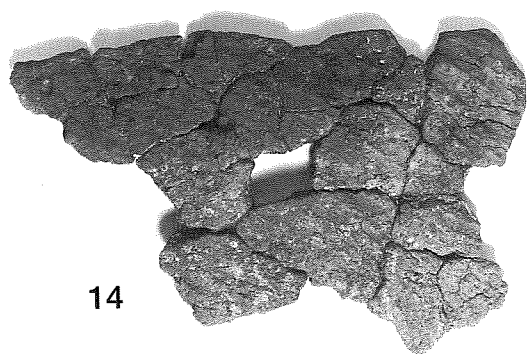


13

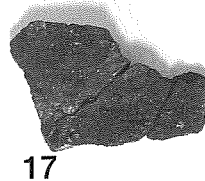


15

16



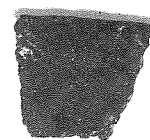
14



17



18



19



20



21



22



23



24



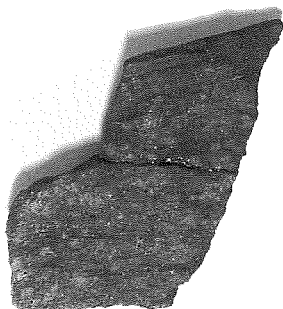
25



26



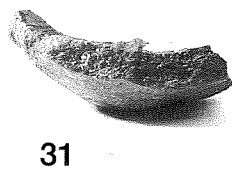
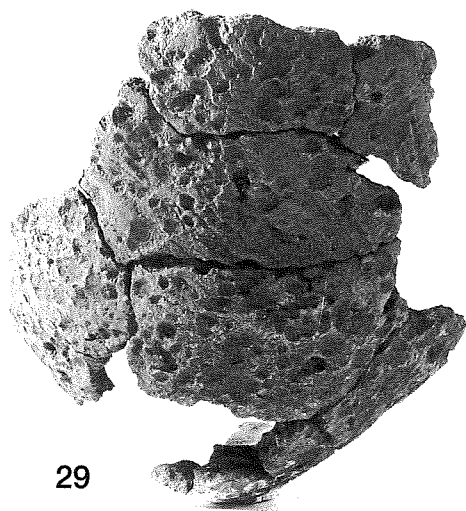
27



28

胴部片

出土土器 (2)



出土土器 (3)



33

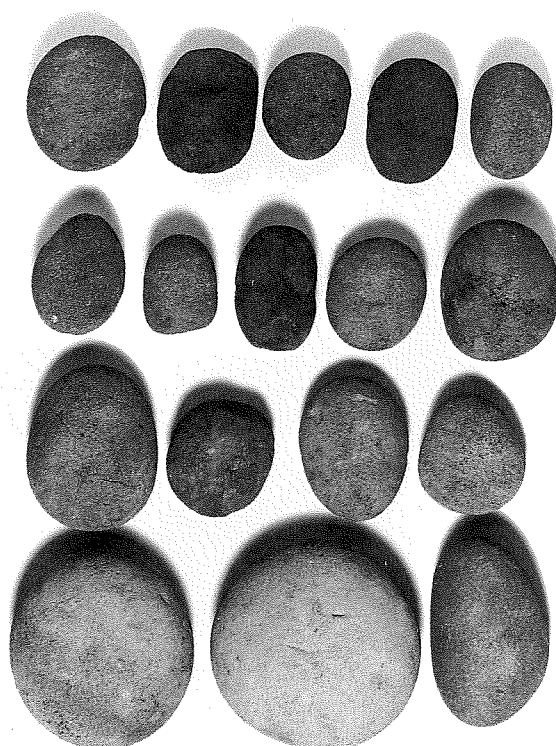
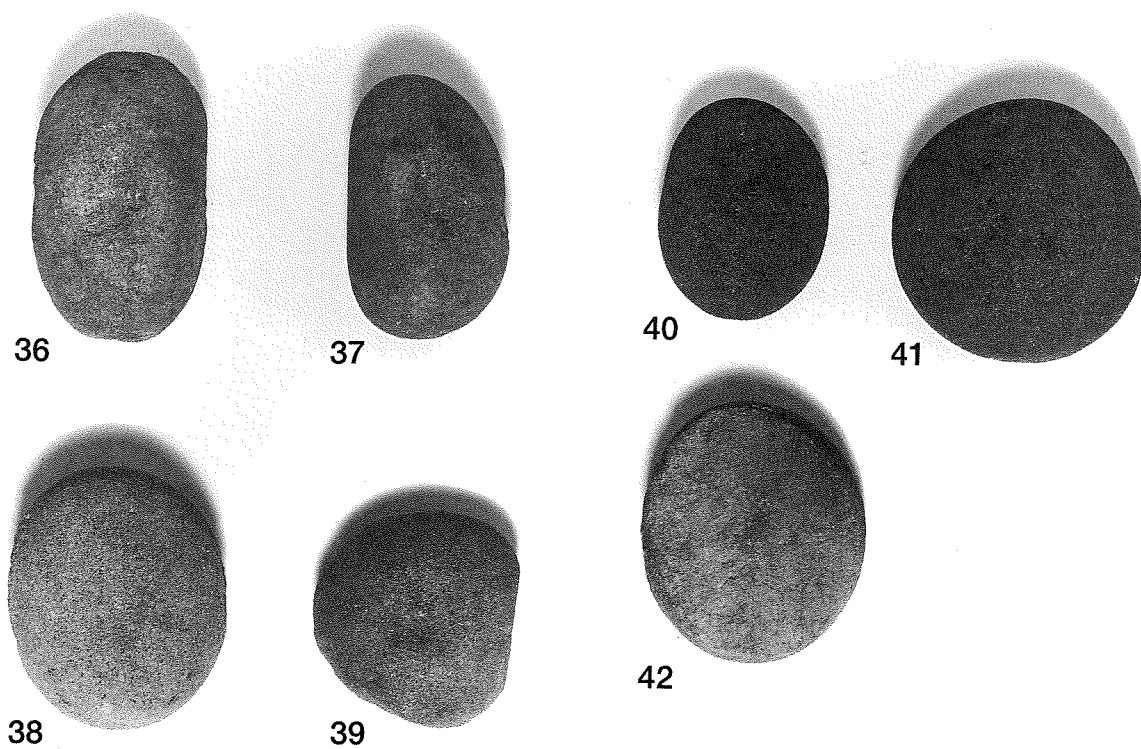


34



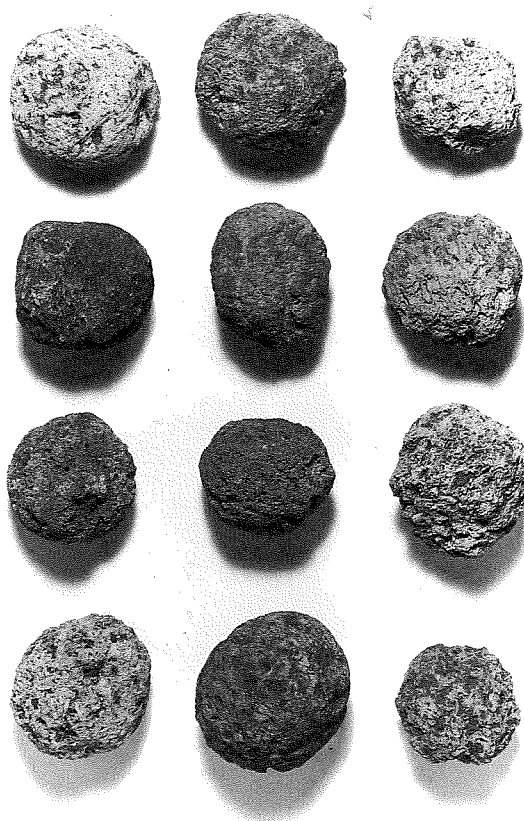
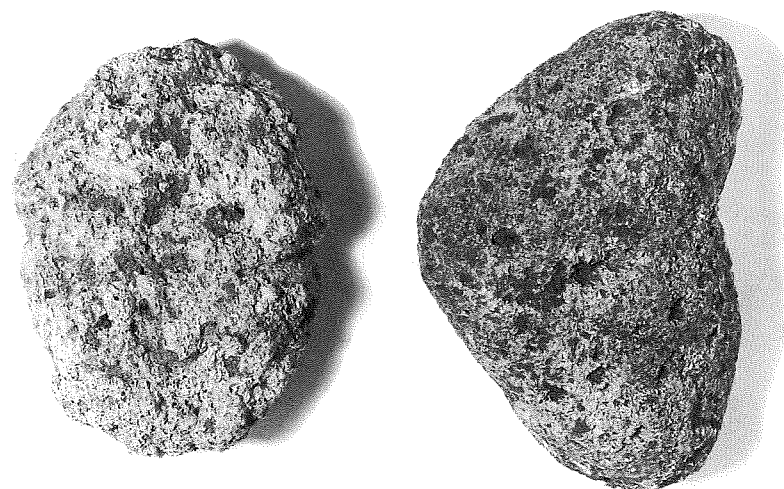
35

出土石器 (4)



出土石器 (5)





軽石製品



発掘調査前



調査状況



調査状況



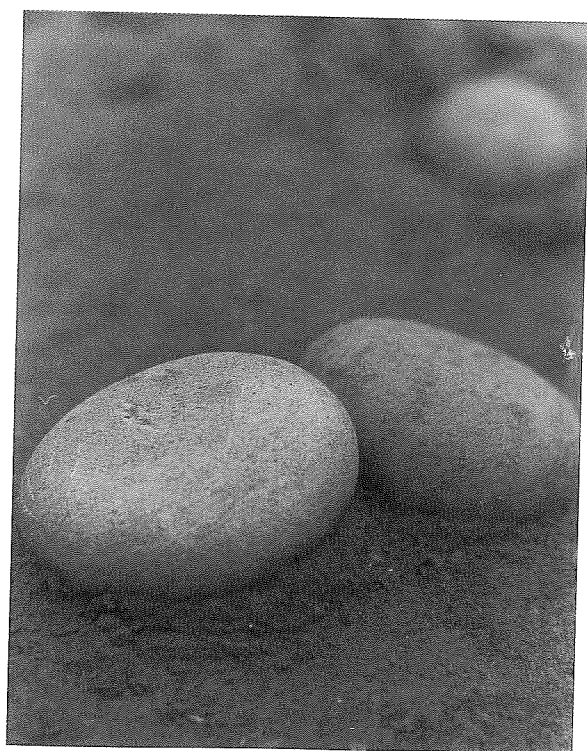
東側土層断面



土器出土状况



土器出土状況



石器出土状況



遺物出土状況



発掘調査状況



発掘体験学習



発掘調査に従事された方々

農免農道整備事業（国上中目地区）に伴う  
埋蔵文化財発掘調査事業報告書

## 平庭 B 遺跡

発行 2000年3月  
編集 西之表市教育委員会  
〒891-3193 鹿児島県西之表市西之表7612  
TEL (09972) 2-1111  
印刷 (有) 種子島新生社印刷  
〒891-3101 鹿児島県西之表市西之表16516  
TEL (09972) 2-0476